

# 日本海洋科学振興財団 海外渡航費用援助 報告書

2024年 12月 20日

氏名	瓢子 俊太郎	
所属機関	機関名 (大学院生は大学院と研究科名まで)	北海道大学大学院環境科学院
	職名 (学生は学年)	博士後期課程3年
渡航期間	2024年 12月 8日 ~ 2024年 12月 14日	
渡航先	Washington D.C. (the United States of America)	
渡航目的とその成果、感想	<p><b>【目的】</b> American Geophysical Union (AGU) Fall Meeting 2024 に参加し、研究成果発表を行う。また、多くのセッションに参加し、他分野の海外研究者と接することで、今後の自身の研究活動の幅を広げる。</p> <p><b>【成果・感想】</b> 南極海大陸棚上における海洋循環の強度に伴う水温躍層の変動性について研究発表を行った。ポスター発表では、大陸棚上の海洋循環により駆動される水温躍層の時間変動性が、海域によって異なること、またその要因を示した。ポスター発表は3時間30分実施され、カリフォルニア工科大学のAndrew Thompson教授や、サウサンプトン大学のAlessandro Silvano 研究員といった、同分野で活躍する10数名の研究者と議論をすることができた。また、関連する異分野の発表にも積極的に参加したことで、氷河や海底堆積物といった異分野における国内外の研究者とも、コネクションを築くことができた。本研究発表は渡航目的を十分に果たすと共に、採択者にとって、今後より多くの研究成果を得るために必要な能力(研究遂行力、プレゼンテーション力、英語力)を再確認する、非常に貴重な機会であった。</p>	